森林やまがた

No.211　2024. 4

フォレストサポーターズ

山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。

目　次

令和６年度山形県森林・林業・木材産業施策の展開方向……2～3
「東北農林専門職大学」いよいよ開学……4～5
やまがた木造設計マイスター認定！
山形県中大規模木造建築物設計者養成セミナーの開催……6
令和５年度山形県再造林加速化対策研修会開催……7
大切な森林を守るため山火事防止を
～忘れない山の恵みと火の始末～……7
快挙！本県初！！　国土緑化運動・育樹ポスター原画コンクール特選……8
国有林から
事業開始から32年　～銅山川地区～……9
みどりのページ
「緑のふるさとづくりセミナー」を開催……10
山形県緑の少年団活動審査会で
酒田緑の少年団が最優秀賞！……10
森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業
安全研修会・活動報告会……10
やまがた森林と緑の推進機構の森林整備と木材生産について……12
普及情報
令和６年度森林研究研修センターの研修計画……13
フォレスト通信　農林大学校林業経営学科から
卒業論文への取り組みについて……14
令和５年度むらやま森林ノミクスセミナー……15
「最上地域森林・林業・木材産業推進セミナー」開催……16
山形県遊学の森からお知らせ……16
「置賜森林ノミクス推進フォーラム2024」の開催…17
～海岸林を侵食する深刻な病～
令和５年の松くい虫被害状況等について……18
令和５年度全国林業グループコンクール
大江町光林会が農林水産大臣賞受賞……19
人事異動……20

（表紙写真：山形県立博物館教育資料館（旧山形師範学校本館）とソメイヨシノ（山形市緑町））

⑵　主伐・再造林推進プロジェクト

・再造林経費への支援や森林所有者が自ら行う小規模再造林への支援【一部、やまがた緑環境税】
・「一貫作業システム」による低密度植栽を実施する森林組合、林業事業者及び森林所有者等への支援
・主伐・再造林加速化対策会議の開催、事業者間連携のための研修会の開催【森林環境譲与税】
・県内由来の耐雪性を有する特定母樹の選抜育成、ミニチュア採種園造成による特定母樹等の種子増産、特定母樹等の育苗技術の実証・普及
・病虫害抵抗性品種の開発、無花粉スギ品種の育成
・コンテナ苗生産基盤施設等の整備への支援

⑶　多面的機能の高い森林管理・保全プロジェクト

・森林経営管理制度の円滑な運用に向けた山形県森林管理推進協議会の開催、市町村・林業関係団体等との情報共有、林業経営者の体制強化や森林所有者等への普及啓発【森林環境譲与税】
・「やまがた森林と緑の推進機構」による市町村の森林経営管理制度実行体制の技術的サポート【森林環境譲与税】
・森林の保全管理に向けた保安林の指定や林地開発許可制度の適正運用
・森林病害虫防除のための特別伐倒駆除、薬剤散布、樹幹注入等の実施、支援
・管理放棄され荒廃のおそれのある人工林や里山林の整備【やまがた緑環境税】

⑷　災害等に強い治山対策推進プロジェクト

・山地災害を復旧または予防する治山施設の整備、地すべり防止施設の整備、保安林の多様な機能の向上を図る森林整備等の実施（山地治山総合対策11箇所、農山漁村地域整備交付金15箇所）
・県単独事業による補助事業対象外の治山施設の復旧や災害発生時の緊急調査等の実施
・荒廃現況等の事前調査や災害関連緊急事業採択のための調査の実施

3　「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」

⑴　県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上プロジェクト

・木材の加工流通施設整備への支援
・広葉樹ストックヤード整備や首都圏での商談会出展経費への支援【森林環境譲与税】

4　「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

⑴　県産木材利用促進プロジェクト

・県産木材を活用した新築住宅及び民間施設への支援【一部、森林環境譲与税】
・展示効果の高い民間施設のモデル的な内装木質化への支援　新規【森林環境譲与税】
・中・大規模木造建築物の木造化に取り組む「やまがた木造設計マイスター」の養成【森林環境譲与税】
・原木段階における製材品の強度予測に関する調査等の実施　新規【森林環境譲与税】
・「山形県林業まつり」等での県産木材のＰＲ経費への支援
・「山形県林工連携コンソーシアム」の運営と成果事例の情報共有【森林環境譲与税】
・間伐等により生じる低質材をラミナ用材やバイオマス燃料として利用するための搬出経費支援【やまがた緑環境税】
・ナラ林健全化のための被害木のチップ等活用への支援【やまがた緑環境税】

⑵　特用林産物振興プロジェクト

・山菜・きのこ等の特用林産の振興に向けた栽培技術向上や生産基盤整備による生産拡大、販売支援等に対する総合的な支援の実施

5　「その他」

・森林環境の維持・管理技術の確立や、きのこ・山菜等の優良品種開発、森林病害虫の防除技術開発等の試験研究を実施　一部新規
・森林の保続培養及び生産力の増進を図るとともに森林組合等の健全な育成発展に資することを目的とした事業資金の貸付（森林組合振興総合資金）
・木材生産の合理化の促進並びに林業経営の安定化を図ることを目的に、造林・育林、素材生産、製材、木材卸売等の事業を行う事業者等への融資（木材産業等高度化推進資金）
・林業者及び木材産業事業者が先進的な取り組みを行うために必要とする事業資金の無利子貸付（林業・木材産業改善資金）

令和6年度　山形県森林・林

《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林（モリ）ノミクス推進条例）に即し、第４次農林水産業元気創造戦略（R3～R6）の目標達成を目指して、「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン～第３次山形県森林整備長期計画～」（R3. 3策定）に沿って、各施策を着実に実施する。

《施策の展開方向と重点的な取組み》

やまがた森林ノミクスを加速化させるため、

１「人材育成・地域づくり」、　２「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」、
３「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」、　４「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

の４つを柱として、各種施策を体系的に展開していく。

１　「人材育成・地域づくり」

⑴　林業を支える人材育成と事業体強化プロジェクト

・労確法による改善計画の実行支援と事業合理化の推進、労働災害防止対策
・東北農林専門職大学森林業経営学科学生に対する「やまがた森林業次世代人材育成支援金」の給付　新規　【森林環境譲与税】
・農林大学校林業経営学科学生に対する「緑の青年就業準備給付金」の給付
・山形県指導・青年林業士の養成研修、意欲的林業グループ等の活動支援【森林環境譲与税】
・森林所有者や林業を行うもの等に対する技術・知識の普及・指導
・森林研究研修センター試験実習林の衛星通信環境の整備　新規【森林環境譲与税】
・ＩＣＴ技術を活用したスマート林業研修カリキュラムの作成　新規【森林環境譲与税】
・スマート林業の実践に必要なスキル修得のための国研究機関への職員派遣【森林環境譲与税】
・県林業職員を対象としたドローン操縦資格の取得支援　新規

⑵　魅力ある地域づくり促進と参加意識醸成プロジェクト

・やまがた森林ノミクス県民会議の開催、情報発信・普及啓発、林業遺産認定に向けた調査の支援【一部、やまがた緑環境税】
・森林サービス産業検討会の開催、森林空間を活用したモデルツアー等の新規実施への支援【森林環境譲与税】
・県内４つの県民の森（県民の森・眺海の森・源流の森・遊学の森）の管理運営〔各総合支庁〕
・市町村や地域住民、NPO等が独自性と創意工夫を凝らして取り組む森づくり活動等への支援〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】
・「やまがた森の感謝祭」や、森を守り、育て、暮らしに活かす緑の循環システムを体験するイベントの開催、木育を推進する人材の養成や拠点施設としての機能拡充〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】

２　「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」

⑴　県産木材の安定供給推進プロジェクト

・生産性の向上に向けた搬出間伐や路網整備、高性能林業機械のヘッド更新に対する支援
・事業者に対する高性能林業機械の導入支援
・低コスト作業システムの確立等に取り組む事業者に対する高性能林業機械のトライアル（レンタル経費）支援【森林環境譲与税】
・森林クラウドシステムの運用及び情報更新【森林環境譲与税】
・航空レーザ測量の実施など森林資源のデジタル管理を行う市町村等の支援
・県営林の経営・維持管理、SGEC森林管理認証に基づく森林モニタリング調査の実施
・高精度な森林情報取得のための県・国・市町村による航空レーザ測量の共同実施、計測成果の解析
・最上地域におけるスマート林業推進協議会やモデル団地での現地検討会の開催
・民有林林道の整備（木材生産基盤となる林道開設10路線、林道改良２路線、点検診断７市町）
・森林施業の集約化に向けた森林経営計画の作成や森林境界の確認等への支援

「東北農林専門職大学」いよいよ開学

東北農林専門職大学・附属農林大学校新校舎

◆はじめに

令和6年4月、日本の農業・森林業の将来をけん引する人材を養成するための新たな拠点として、山形県立の「東北農林専門職大学」が新庄市に開学しました。

今年度入学した第1期生農業経営学科34名、森林業経営学科9名の計43名の学生とともに、いよいよ始動します。

◆大学設置のねらい

農業・森林業は県民、国民の命をつなぐ、本県にとって重要な基盤産業です。一方、農林業を取り巻く情勢は、従事者の減少・高齢化や消費者ニーズの多様化など目まぐるしく変化しています。こうした中、農業・森林業を持続的に発展させるためには、国際的な視点を持ち、時代の変化に対応した経営を戦略的に構築しながら、更なる事業活動につなげることが出来る農林業の人材を育成することが重要です。このため県では、東北初となる農林系の専門職大学を設置することとしました。

専門職大学は、高度な実践力と豊かな想像力を備えた専門職業人材を養成するために質の高い実践的な教育を行う、新しいタイプの4年制大学です。従来の大学の学術重視の専門教育に加え、職業重視の専門教育を行い、卒業後は「学士（専門職）」の学位が授与されます。

◆学部・学科・附属校

東北農林専門職大学は「農林業経営学部」の1学部に、「農業経営学科」、「森林業経営学科」の2学科から構成されます。

また、県立農林大学校は東北農林専門職大学の附属校として、引きつづき農業・森林業の即戦力を目指す学生の学びの場として存続します。

大講義室

◆充実したカリキュラム

1　カリキュラムの特徴

東北農林専門職大学が養成する人材像は、

① 時代の変化に対応した経営戦略を構築できる人材

② 地域をけん引できる人材

の2点を掲げています。これを踏まえ大学のカリキュラムは、農業・森林業の生産や経営、加工販売に関する知識・理論に加え、建築、企画デザイン、金融、観光等の関連分野についても広く学ぶこととしています。さらには、国際感覚を身に付けるために海外実習やビジネス英語の科目にも力を入れていきます。

また、授業時間の3分の1以上を実習やフィールドワークに当て、実践的な学びを重視しており、特に農業法人や林業事業体などの協力を得ながら農業・森林業を学ぶ臨地実務実習では、3年間で計90日の実習を行います。森林業経営学科では、県内外の50箇所以上の事業体から協力をいただき実施します。

2　森林業経営学科の専攻科目

森林業経営学科の専攻科目は次の科目で、森林業の川上から川中、川下に関わる学びと、それらをトータル的にマネージメントする力を養います。

○森林土壌・樹木学、造林学、森林生産学、森林労働安全衛生論、非木材森林産品概論、森林保護学、森林保全学、測量学、森林情報学、先端森林技術論、木質科学概論、SDGsと農業・森林業、国際森林業論、木材利活用論、森林環境政策、森林経

営管理学、森林業経営分析・計画、東北の森林資源管理、東北の森林資源利活用、森林生態系サービス保全利用論・演習、演習林実習、森林業実地体験実習、臨地実務実習

3　魅力的な教員陣

東北農林専門職大学の教員は、全国各地の大学や研究機関での教育・研究実績を積んできた研究者教員と、県の試験研究機関や林業普及指導員等として成果を上げ、森林業の現場に精通する実務家教員で構成されており、理論と実践をバランスよく指導します。

森林業経営学科では9名の教員が、教鞭をとります。

【研究者教員】柴田晋吾教授（森林環境政策）、藤本登留教授（木材利活用論）、大久保達弘教授（造林学）、堀靖人教授（森林経営管理学）、菅沼秀樹准教授（森林情報学）

【実務家教員】小山敢准教授（森林保全学）、吉崎明講師（森林業実地体験実習）、上野満講師（演習林実習）、古澤優佳講師（非木材新林産品概論）

※（　）内は主な担当科目

学生食堂

◆充実した大学施設

1　専門職大学・附属農林大学校新校舎

東北農林専門職大学・附属農林大学校の校舎は、旧農林大学校校舎の東側に新たに建設され、昨年12月に完成しました。校舎の造りは、2階建の交流棟と、4階建の教育・研究棟で構成されています。交流棟の1階部分は学生食堂、2階部分は図書館となっており、広く県民の皆様からも利用していただける解放エリアとなっています。校舎全体の内装には木材をふんだんに使用し、農業・森林業の学びの場としてふさわしい造りとなっています。また、交流棟には、300人程度を収容できる大講義室を備えており、講義や学校行事だけでなく公開シンポジウム等でも利用する予定です。大講義室の壁には、東京オリンピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザで利用された県産木材が使われています。

2　スマート森林業研究・研修センター

スマート森林業研究・研修センター

東北農林専門職大学のキャンパス内には、新校舎の他に気候変動対応型農業研究・研修センター、スマート農業研究・研修センター、スマート畜産業研究・研修センター、スマート森林業研究・研修センターの4つのデジタル実装研究・研修拠点を新たに整備しました。

スマート森林業研究・研修センターでは、リモートセンシングやレーザ測量等で集積したデータの解析、ドローンによる森林データの集積及び解析の実証と技術開発、ICT技術を活用した森林経営計画の作成や作業道の作設計画等に関する研究・研修等に取り組む予定です。

当施設を活用し、大学、行政、企業等が連携して森林資源情報の高精度化や情報収集・解析作業の効率化を進める実用的手法確立の研究、研修に取り組み、いち早く現場に普及することで、東北の森林業の事業効率化や森林資源の利活用拡大を図り、森林業の経営基盤強化や生産性向上に貢献することを目指しています。

GLOCAL
RENOVATOR
～ 農林業に新風を ～
東北農林専門職大学
Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry

〔東北農林専門職大学〕

やまがた木造設計マイスター認定！

「山形県中大規模木造建築物設計者養成セミナー」の開催

【はじめに】

県は、令和5年3月28日に一般社団法人山形県建築士会、山形県木材産業協同組合と「木造建築物の設計・施工に係る人材育成等に関する木材利用協定」を締結しました。

その取り組みの一つとして「山形県中大規模木造建築物設計者養成セミナー」を開催し、修了者を「やまがた木造設計マイスター」に認定しましたので報告します。

【セミナーの実施】

本セミナーは、法政大学兼任講師である鍋野友哉氏をコーディネーターとして、11月から3月までの計6日間にわたり行われ、県内の一級建築士24名が参加しました。

11月12日、第1回目の講義は、東京大学教授の稲山正弘氏より、一般流通材とプレカットにより経済的に中大規模木造を作る方法など、実際に稲山氏が携わった建物について、鍋野氏からは、木造建築物に用いられる各種建築用部材の基礎的な知識や実際の建物での利用について説明していただきました。

11月26日、第2回目の講義は、法政大学兼任講師の河野泰治氏より実際の建築物の設計図などから建築法規について、桜設計集団代表の安井昇氏からは、火災実験などを通じた木質材料のもつ防火的特徴や防火に必要な設計などについて説明していただきました。

12月17日、第3回目の講義は、東北芸術工科大学教授の竹内昌義氏より、断熱の工法や窓の配置、脱炭素に向けエネルギー効率の良い建物について、法政大学教授の網野禎昭氏からは、森林資源の持続性や中山間地域経済の持続性に配慮した木造設計などについて実際の建物を紹介しながら説明していただきました。

2月3日、第5回目は、白鷹町のまちづくり複合施設とおきたま木材乾燥センターの現地視察を行いました。白鷹町農林課村上博之林政係長より、白鷹町における森林・林業の取組などを、森林再生・木材コーディネーターの吉田博之氏からは、複合施設の設計方針、木材調達方法などについて説明していただきました。

1月28日の第4回、3月3日の第6回（最終日）は、7班に分かれ演習を実施しました。

設計課題は、「県産材を利用した直売所を併設したやまがた魅力発信施設」とし、鍋野氏とハフニアムアーキテック主宰の福山弘氏から指導していただきました。福山氏からは、材料特性や意匠と構造の設計を同時に行うことの重要性について説明していただきました。

最終日には、各班が考案した設計案の発表を行い、一般的に流通している無垢材を使用した様々な設計案が示されました。

演習の様子

【やまがた木造設計マイスターの認定】

全ての講習が終了した後、修了式が開催され、受講生を代表して高橋友紀さんに福井森林ノミクス推進課長より修了証書が手渡され、今回の受講者24名全員が「やまがた木造設計マイスター」に認定されました。

マイスターの皆様には、県産木材を活用した民間施設等の木造化及び木質化の提案や相談などの活動を担っていただく予定です。

【おわりに】

本セミナーは、県内で建てられる建築物に県内で流通している木材を利用してもらうことを目的として、開催したものです。マイスターによる県産木材を活用した建築物が増えていくことが期待されます。

やまがた木造設計マイスターの詳細は県ホームページをご覧ください。

〔県森林ノミクス推進課〕

セミナー修了式の様子

令和5年度山形県再造林加速化対策研修会開催

◆はじめに

本県林業の喫緊課題である主伐後の再造林について、関係者の共通認識の下一体となって県内の再造林を推進することを目的に、山形県再造林推進機構主催の研修会が令和6年3月11日に開催されました。

◆研修講義内容

講師：秋田県　白神森林組合
森林づくり課長　加藤　正樹　氏

白神森林組合は、秋田県能代市に本所を置き、主に能代山本地域（能代市・藤里町・三種町・八峰町）の民有林の管理を行っており、令和4年度実績で間伐198ha、再造林100ha、下刈365ha等の事業を実施している森林組合です。秋田県全体で令和4年度再造林面積が473haとのことでしたので、秋田県全体の再造林面積の約2割程度を担っていることになります。

主伐・再造林を進めるために取り組んでいることとして、再造林8万円／ha、下刈り2万円／haを上限に、森林組合独自の嵩上を行っているとのことでした。また、森林所有者に提案する際に、再造林後の保育も含めて所有者の負担がないことを強調しているとのことでした。所有者の理解を得るためには、何度も足を運び、タブレット等も活用しながら、現地の森林状況や主伐・再造林の必要性について、丁寧に説明することが大切とのことでした。

◆おわりに

再造林を推進するためには、植栽により資源価値が上がること、植えても損がないことを組合員に対してプラン書でしっかり説明し、信頼関係を構築することが大切という話が印象的でした。県では引き続き、再造林や保育等に関わる課題解決に向け取り組んでいきます。

〔県森林ノミクス推進課〕

研修会の状況

大切な森林を守るため山火事防止を
～忘れない　山の恵みと　火の始末～

◆山火事の発生時期

山火事の発生は、雪解けが始まり、4月から5月上旬の雨が少なく、空気が乾燥し、季節風が強い春先に集中します。農作業を始める時期とも重なり、例年、田畑や自宅周辺での火の使用が原因での山火事が多発しています。また、炎が燃え広がりやすい時期であるため、初期対応が遅れると大規模な山火事被害に発展するおそれがあります。

◆山火事防止運動について

県では、「忘れない　山の恵みと火の始末」を統一標語に、令和6年4月1日～5月31日までを山火事防止運動の実施期間とし、県内各地区で関係機関が連携し、森林巡視や広報宣伝活動などを行います。

◆山火事を発生させないために

森林やその周辺では、次のことに注意して、山火事防止に取り組みましょう。

① 枯れ草などがある場所で、たき火をしないこと。
② 強風時及び乾燥時には、たき火や火入れをしないこと。
③ やむを得ずたき火等の火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。
④ 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。
⑤ タバコは指定された場所で喫煙し、吸い殻は確実に消すとともに、投げ捨てをしないこと。
⑥ 火遊びはしないこと。

特に②のとおり強風時や乾燥時は周囲に燃え広がりやすいため、屋外での火の使用は止めましょう。私たち一人一人の心がけが大切です。

◆おわりに

森林は水源のかん養や災害の防備機能、生活環境の保全・形成等の公益的な機能を有しています。また、地球温暖化防止のため二酸化炭素の吸収源としても期待されています。ところが、山火事が発生すれば、森林の持つこれらの重要な役割が一瞬で失われることになります。被害を受けた森林が元の姿に回復するまでには、長い年月を要します。かけがえのない、大切な森林を守るため、山火事防止に御協力をお願いします。

〔県森林ノミクス推進課〕

快挙！
本県初!!!

令和6年度国土緑化運動・育樹ポスター原画コンクール特選!!!

◆はじめに

国土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに緑化思想の普及を図ることを目的とした公益社団法人国土緑化推進機構主催による令和6年度の国土緑化運動・育樹ポスター原画コンクールにおいて、本県の中学生が特選「文部科学大臣賞」を受賞しました。本県児童生徒の特選の受賞は、初となります。

◆受賞者

中学校の部
特選「文部科学大臣賞」
題名「この美しさを守りたい」
南陽市立沖郷中学校3年
嶋倉優斗さん

◆令和6年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの概要

（主催）
公益社団法人国土緑化推進機構
（昭和25年から毎年開催）
（後援）
農林水産省、文部科学省
（応募・審査結果）
①応募総数
全国28、741点（本県159点）
②受賞者
合計　51名
（内訳）
小学校の部　23名
中学校の部　17名
高等学校の部　11名
なお各部門は、特選、準特選入選となっています。

※本コンクールの受賞者のうち、小学生の部の文部科学大臣賞は育樹運動のポスターとして、同じく小学生の部の農林水産大臣賞は国土緑化運動のポスターとして採用されています。

◆おわりに

みどり自然課では、毎年4月に募集を依頼し、10月上旬までに提出頂いています。より多くの児童、生徒の皆様から応募いただき、街の緑化や自然の保護などに興味を持つきっかけになりますよう関係者の皆様からの御協力をお願いいたします。

（県みどり自然課）

ポストカード

作品集

緑の募金

春の募金期間
4月1日～5月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

緑あふれる美しいふるさとづくりに、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人
やまがた森林と緑の推進機構
理事長　今井　敏
〒990-2363　山形市大字長谷堂字馬場2265　TEL 023-688-6633　FAX 023-688-6634

国有林から
事業開始から32年 ～銅山川地区～

山形森林管理署最上支署は、山形県北東部の1市4町3村の国有林約10万6千ha（最上地域の森林の約74％）を管理しております。

最上地域は古くから木材産業が盛んで、安定的に供給される量もさることながら優良な材も産出しております。

近年の国有林は大径木の蓄積も増加しており、当支署では高齢級高品質材のスギを6m以上の長尺材にし、市場へ出しております。おかげさまで好評を得ることができ、林業・林産業の活性化の一役を担えたかと思っております。

今回は、当支署の取り組みの中から「直轄地すべり防止事業」を紹介いたします。

◆銅山川地区の地すべり◆

先に、「直轄地すべり防止事業」とは、事業が著しく大規模になる場合や対策に高度な技術を必要とする場合において、国土の保全上特に重要な事業については都道府県に代わり国が直接事業を実施する制度のことです。

山形県最上郡大蔵村南山の銅山川地区は、昭和27年より山形県が地すべり防止対策を行ってきましたが、地すべりの規模が次第に拡大し、重要な保全対象に被害を及ぼす危険性が高まったことから、山形県から事業の要請を受け、平成4年から当支署（旧新庄営林署）が民有林直轄地すべり防止事業として着手しました。

地すべりの発生原因は大量の地下水が浸透しにくい層（すべり面）に流れ込むことで発生します。

銅山川地区一帯は、シラス層（火山による堆積物）が厚く堆積しており、水分を含むと弱く崩れやすい性質があります。

水が浸透しにくい層の上部に、地下水を多く含むシラス層があると、そこを境に地すべりが起こりやすくなります。

このような中、平成8年5月の融雪期に大規模な地すべりが発生しました。規模は130ha（東京ドーム27個分）最大の深さは170mにも達するものでした。

国道458号の一部は陥没し孤立する地区が発生するなど、住民の生活や、経済活動に大きな影響を及ぼしました。

◆これまでの事業◆

平成4年の事業開始から、地下水を排除すべく排水トンネルや集水井等を計画し行ってきましたが、平成8年の大規模地すべりは当初の予測を大きく超えるものであったため、学識経験者や地元行政担当者の意見を反映させるため、技術検討会を設立しました。

以降、観測結果を基に計画修正などで、令和4年までに3回の全体計画を変更しております。

現在本体工事は完了しており、地下水を排除するため、地上150～200m下の排水トンネル（約6km）と、排水トンネルへ垂直に排水する落とし込みボーリング201本を設置しました。

また、集水井29基のうち林野庁直轄事業の中で一番深い109mの井戸を施工しております。

事業完了は令和6年度の予定でしたが、近年の豪雨や融雪により新たに小規模地すべりが明らかになったため、それに対処すべく4回目の全体計画変更を行い、現在は2年延長した令和8年度の事業完了に向けて取り組んでおります。

◆地域の安全・安心◆

森林を保全する当事業の目的について、より一層理解を深めていただくため、地域住民の方々にパンフレットの配布や自治体、関係機関を対象に毎年見学会を開催しています。

またJICA（国際協力機構）の事業により海外から研修生が当事業地を見学いたしました。過去には、トンネル内を地域の方や小学生の児童にも見学していただき、理解を深めていただきました。

今後も現地説明会を含めた見学会を催し、ご理解とご協力を得ながら、地域の方々が安全で安心な暮らしができるよう事業を進めてまいります。

〔山形森林管理署最上支署〕

みどりのページ

緑のふるさとづくりセミナー」を開催

2月28日（水）、山形ビッグウイングにおいて、緑と森づくり支援事業研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。市民活動による緑化の推進や森林環境の保全について広く普及啓発するとともに、関連する助成事業について周知を図るため毎年開催しているもので、森林ボランティア団体などから約80名の参加者が集まりました。

◆第1部　講演

公益財団法人キープ協会環境教育事業部の鳥屋尾（とやお）健（たけし）事業部長をお招きし、「森林環境教育　はじめの一歩」と題してご講演いただきました。同協会では40年にわたり、山梨県北杜市の清里高原を拠点に、幼児から大人まで幅広く森林環境教育を実践し続けており、先生はその第一線でご活躍されています。

今回の講演では、「森林整備はしているけれど、人前で話したりするのは苦手」、「森林環境教育といっても何をしたらいいのか…」といった疑問に応えるような形で、豊富な事例をもとにお話しいただきました。森を楽しむことにもいろいろな切り口があり、「あっ、こんなことなら自分たちでもできるかも！」という気づきを得られた方も多かったのではないでしょうか。これを契機に、参加者の皆さんの活動の幅がさらに広がり、より多くの県民の皆さんに森林や緑の楽しさが伝わることを期待しています。

鳥屋尾氏の講演

◆第2部　事例紹介

助成事業の活用事例について、地縁団体万世教育振興会（米沢市）から発表していただきました。同会は、長く手入れがされていなかった地区内の里山を整備するとともに、林業体験や花炭作り体験などを通して地域の子どもたちの森林環境学習を支援しています。活発な活動の様子は、他団体の参加者にも参考になったようでした。

◆第3部　助成事業ガイダンス

令和6年度事業の募集概要等について担当者から説明しました。

やまがた森林と緑の推進機構では、今後も緑豊かなふるさとづくりを推進していくため、様々な支援や普及啓発に取組んでいきます。

山形県緑の少年団活動審査会で酒田緑の少年団が最優秀賞！

山形県緑の少年団連盟が主催する令和5年度山形県緑の少年団活動審査会で、庄内ブロック代表の酒田緑の少年団（酒田市）が最優秀賞を受賞しました。

酒田緑の少年団は、酒田市内の4～6年生が所属する地域少年団です。

他団体等との交流を通して、地域の自然を守り次世代へつないでいく意識を育むことを目指して活動に取組んでいます。

学習活動としては、万里の松原散策において、海岸林の果たす役割や近年問題となっているマツ材線虫病の被害について学びました。また、サマージャンボリーや庄内地区交流研修会への参加、奉仕活動としてのやまがた森の感謝祭への参加などの活動を行いました。

なお、優秀賞は、大江町緑の少年団、鮭川村みどりの少年団、吉野緑の少年団（南陽市）が受賞しました。

最優秀賞を受賞した酒田緑の少年団は、10月に福井県で開催される全国緑の少年団活動発表大会（全国育樹祭併催行事）に推薦する予定です。

万里の松原での学習活動

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業　安全研修会・活動報告会

3月11日（月）、ホテルメトロポリタン山形において、標記事業の安全研修会・活動報告会を開催しました。森林・山村多面的機能発揮対策交付金は、地域住民らが行う里山林の保全管理等を支援する林野庁の補助事業で、当機構が山形県における

地域協議会を担っています。

当日は、地域協議会委員、アドバイザーをはじめ、各活動組織、今後活動に取組みたい団体、県、市町村などから、約80名の参加者が集まりました。

◆安全研修会

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部の鈴木立男事務局長から、「安全な作業確保のため必要なルールや手順について」と題して、ご講演いただきました。本事業においても、令和に入ってから全国で20件もの災害（うち3件は死亡事故）が発生しています。幸い本県での発生は含まれていませんが、安全作業の確保は最も重要な課題です。

鈴木氏の安全研修

鈴木氏は、森林ボランティア活動においても、林業労働とまったく同じリスクを背負っており、違いは労使関係の有無だけであること、そのため法令に準じた安全衛生の確保が求められることを強調され、参加者の皆さんも熱心に受講していました。質疑応答でも複数の手が挙がり、関心の高さがうかがえました。

◆活動報告会

令和5年度をもって3ヶ年の活動計画が一区切りとなる4団体に発表していただきました。

①里山クラブにしやま（西川町）

②高畠町二井宿地区山林の景観と恵みを守る会

③浅立森づくりの会（白鷹町）

④飯豊町中津川の森人会

どの報告からも活動を通じて地域をよくしたいとの思いが感じられ、参加者の皆さんも大いに刺激になったようでした。また、アドバイザーの大隅尚行氏や地域協議会委員の皆様からも、引き続き安全最優先で楽しく活動を続けてほしい、効率的に活動を進めていてすばらしい、などのご講評をいただきました。

取組みについてのご相談は随時受付けていますので、お気軽にお問合わせください。

緑の募金にご協力をお願いします！

当機構では、県内の森づくりや地域の緑化活動などを支援するため、緑の募金への協力を呼び掛けています。令和6年度も「緑の募金で進めよう！SDGs」をスローガンに県内全域で展開しており、特に4月15日から5月14日までの期間を【みどりの月間】として「緑の募金」を広く県民の皆様に周知する活動を行っていますので、より一層のご協力をお願いいたします。

また、昨年度に引き続いてモンテディオ山形と連携し、ディーオくんが緑の羽根を持った新しいデザインのピンバッジを製作しました。500円以上の募金に協力をいただいた方に差し上げていますので、詳しくはお問合わせください。

2024年バージョンのピンバッジデザイン

〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕

緑の募金にご協力いただいた企業・団体の皆様（R6.2.1～R6.3.31）

〔やまがた森林と緑の推進機構取扱い分〕

㈱アオバヤ、青山建設グループ緑の募金の輪を広げる会、㈱エフエム山形、M木工、小国町森林組合、カーチェック㈱、金山町森林組合、北庄内森林組合、㈱後藤工業、蔵王温泉観光協会、㈱ジャワ商会、㈱竹原屋本店、㈱戸沢村産業振興公社、西村山地方森林組合、㈱本沢、山形県環境保全協議会、山形県産業創造支援センター、山形森林管理署最上支署、山形大学附属特別支援学校「山をきれいにする」グループ、米沢地方森林組合、㈱読売蔵王　（敬称略、五十音順）

ご協力ありがとうございました

やまがた森林と緑の推進機構の森林整備と木材生産について

◆分収林の造成について

やまがた森林と緑の推進機構は、昭和42年に設立（旧山形県林業公社）され、これまで県内31市町村で民有林人工林の約13％にあたる約1万5千6百ha（約94％がスギ）で、土地所有者との分収契約により、森林造成と団地化を図ってきました。

また、森林の適切な維持管理を通して、水源かん養、県土の保全等、森林の持つ公益的機能の高度な発揮により、県民の生活環境の保全を図るとともに、森林資源の保続培養により県民生活に必要な木材を安定的に供給して、農山村地域の雇用確保や地域経済に大きく貢献してきました。

◆森林整備事業の推進について

森林整備事業は、森林経営計画に基づいて、前年度に森林整備計画林地の林況を把握するため、ドローン調査や標準地調査を実施しており、平均樹高、平均胸高直径、haあたり成立本数及び胸高直径と幹材積を算定し、地位判定に基づき、伐採本数、伐採率、想定搬出材積を算出して事業の発注を行っています。

国庫補助事業を活用して、主に搬出間伐と効率的な木材生産を行うための森林作業道開設を実施していますが、近年の労務単価や間接費率及び燃油価格の高騰のほか、分収林の奥地化に伴い、事業費が上昇傾向にあり、事業量の確保が課題となっています。

◆木材生産の拡大について

分収林は、現在、Ⅸ齢級の林分が最も多く全体の23％を占めており、間伐材等の利用期を迎えています。

平成24年度から、搬出間伐に本格的に取組み、生産目標の達成と有利販売を確実に実施するため、A・B材の販売は、山形県森林組合連合会に委託しており、事業受託者と推進機構との3者で供給工場向けの造材や運搬等についての現地打合せを間伐事業着手前に行っています。

また、A・B材については、県内の製材工場や集成材工場に向けて積極的に供給を行っており、C・D材は事業受託者が買取り、県内の木質バイオマス発電所等へ供給しています。

これまでの木材生産拡大に関する取組みとして、プロポーザル方式による提案型入札や民国連携の共同施業団地及び民有林の森林経営共同計画の協定締結による間伐材生産拡大事業、木質バイオマス発電向け立木販売方式の低質材利用拡大事業等を実施してきました。

また、当機構が主宰している分収林事業推進協議会において、森林組合の現場施工管理者を対象に搬出間伐の施業手法、施工管理に関する技術力・生産性向上を目的とした技術研修会などを毎年開催しています。

◆おわりに

これからも適切な森林整備を通じて、健全な森林の育成と木材生産に積極的に取り組み、県が推進する「やまがた森林ノミクス」の加速化に取組んでまいりますので、当機構の森林整備事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（公財）やまがた森林と緑の推進機構

過去７年間の森林整備事業

年度		平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	合計	平均
間伐事業量(ha)		202	191	255	217	201	190	220	1,476	211
搬出量(m³)		9,619	13,043	13,745	13,559	12,502	11,545	13,919	87,932	12,562
内訳	A材搬出量(m³)	603	934	98	221	311	745	790	3,702	529
	B材搬出量(m³)	5,632	6,609	7,960	7,936	7,637	6,713	8,044	50,531	7,219
	CD材搬出量(m³)	3,384	5,500	5,687	5,402	4,554	4,087	5,085	33,699	4,814

普及情報

令和6年度森林研究研修センターの研修計画について

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進するため、各種研修を実施しています。令和6年度の研修計画について紹介します。

【主要研修の概要】

令和6年度は、昨年度に引き続き、ＩＣＴ等を活用した新たな林業技術の習得に重点を置くほか、県・市町村林務担当職員を対象とした技術向上・育成研修を数多く実施します。主な研修の概要は下表のとおりです。

それぞれの研修の日程等が決まり次第対象の方々にお知らせします。

多くの方々の御参加をお待ちしています。

〔森林研究研修センター〕

令和５年度林業技術者技術向上研修
（作業道作設編）

【令和６年度の主な研修の概要】

研修名	開催月（予定）	場所	対象者	内容
林業技術者技術向上研修（作業道作設編）	６月（４日間）	試験実習林（西川町）	森林作業道作設オペレーター（初級者）	・簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
林業技術者技術向上研修（ICT技術・林業機械編）	７月、９月（２日間）	試験実習林（西川町）現地	森林施業プランナー、林業経営体職員等	・ＩＣＴ等情報化技術を用いた森林調査作業システムの構築 ・森林作業道改修技術の習得
青年林業士スキルアップ研修	７月	現地 農林大学校	青年林業士	・先進地現地視察 ・農林大学校学生との意見交換
指導林業士・指導林家等研修	７月、10月（２日間）	庄内管内	指導林家、指導林業士・青年林業士	・森林を活かした農山村の地域づくり ・現地研修
林業士養成研修	２月（２日間）	研修館（寒河江市）	林業士候補者	・山形県林業士（青年・指導）認定を受けるための養成研修
森林技術職員等基礎研修（刈払機）	６月（１日間）	研修館（寒河江市）	市町村、県職員	・刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育
森林技術職員等基礎研修（チェーンソー）	10月（３日間）	研修館（寒河江市） 試験実習林（西川町）	市町村、県職員	・チェーンソーによる伐木等の業務に係る特別教育
森林技術職員等基礎研修（新任者）	５月～９月（３日間）	研修館（寒河江市）	市町村、県職員	・森林行政の推進に必要な基礎的知識の習得 ・路網・造林・伐採の実務 ・ミニチュア採種園の造成・エリートツリー造成（特定母樹）
森林技術職員等技術研修①～⑤	６月～２月（５日間）	研修館（寒河江市） 現地	市町村、県職員	・造林・林業機械・林業経営・森林保護・特用林産
デジタル技術普及研修	９月（３日間）	試験実習林（西川町）	市町村、県職員	・ＩＣＴ技術を活用した林業分野の知識・技術の習得

Forest

フォレスト通信

農林大学校林業経営学科から「卒業論文への取り組みについて」

◇無事に8期生7人全員が2学年に進級し、就職活動、卒業研究調査、資格取得とますます忙しくなってきております。今回は、今年度彼らが取り組む卒業論文のテーマと内容について紹介します。

○卒業論文について

「才治沼実習林に生息する獣類の種類の把握と幼齢木に加害する獣類の特定」

才治沼実習林に生息する獣類の種類を調査し、実習林に植栽されている幼齢木に加害している種類を特定、その獣類の生息密度を推定して今後の実習林管理の基礎データとする。また、金山町植栽地における獣害の状況を調査し、今後の再造林のための基礎資料とする。

「才治沼実習林炭窯で製造する粉炭及び木酢液の農林業への利用方法の検討」

農林業で利用可能な粉炭と木酢液について製造方法の検討を行い、他学科の卒業研究と連携し、土壌改良材や水田での雑草抑制、苗木生産の培土、獣害の忌避剤としての利用方法等について検討する。

「広葉樹の新たな活用方法の創出―雪板の製作方法についての検討―」

広葉樹材の利用を促進するためには新たな用途が必要と考え、近年、雪上サーフィンとして話題になっている「雪板」の製作方法等を検討し、製作、アンケート調査を行い、広葉樹材製品としての可能性を探る。

獣類の痕跡調査状況

「小型重機を用いた地拵え作業の効率化」

農林大学校で所有する小型重機を用いて、小型重機が持つ機動性を生かした地拵え用レーキを開発する。また、開発したレーキを用いた授業で活用できる作業方法等を検討し、労力とコスト等の軽減が図れるか検討する。

粉炭製作状況

「航空レーザー計測データの活用推進」

広範囲・高密度で計測された航空レーザー計測データの特徴をより一層活かすため、航空レーザー計測データと造林適地の判定に使用するスコア表、土壌図を一つの地図に合わせて金山町森林区域の地図を作成、航空レーザー計測データの更なる活用方法を検討する。

「才治沼実習林炭窯における炭焼きマニュアルの作成」

令和5年度に前年度から卒業生が製作してきた炭窯が完成した。授業で実習林の広葉樹を炭材に良質な黒炭を生産し、その行程を元に農林大学校の授業で行える「炭焼きマニュアル」を作成し、学生に特用林産物である黒炭を製炭することの魅力を伝えることを目標とする。

「スギコンテナ苗生産における用土と挿し木苗の生育状況に関する調査」

スギコンテナ苗の生産に用いられている用土「ココナツピート」は海外からの輸入に頼っており、それに代わる国産の代替用土を選定し、用土別に生育状況を調査する。また、スギの挿し木苗の生産技術と再造林経費が低減されるコンテナ苗の生産技術を合わせて、マルチキャビティコンテナへの穂木直挿しによる挿し木苗の生育状況を調査し、挿し木苗生産の可能性を検討する。

◇卒業論文では県の関係機関及び林業事業体の皆様からのご協力が必要となります。ぜひともご支援を賜りますようよろしくお願いします。

また、4月に9期生が入校しました。これまで1期生から7期生までの84名が卒業し、東北をはじめ全国の林業事業体等に就職しております。令和6年度の在学生も林業、木材産業の即戦力として活躍できる担い手となれるよう、今後もご協力よろしくお願いします。

〔山形県立農林大学校〕

～森林の新たな活用を考える～
令和5年度むらやま森林ノミクスセミナー

◆はじめに

令和6年3月9日（土）にモンベル山形店（山形市）にて、「むらやま森林ノミクス」の推進のため、森林の新たな活用手法を考えるセミナーを開催しました。当日は18名の方に御参加いただきました。

◆第一部「森林の新たな活用事例を学ぶ」

橋本康範氏（一般社団法人農山漁村文化協会東北支部）より、全国での様々な森林・林産物の活用事例を、大場黎亜氏（東北GYROs代表）、刈田路代氏（Woods and People MARUMORI代表）より、異分野から森林・林業への参入事例について御紹介いただきました。

◆第二部「森林の新たな活用を考えるワークショップ」

相内洋輔氏（一般社団法人妄想からアイデアを共創する協会理事）指導のもと「モウトレFlash」という手法を用いてアイデア出しワークショップを行いました。

この手法は、瞬間的なアイデア発想力を高めながら、ビジネスプランの策定を体験するトレーニングプログラムです。参加者からは、「森林資源×〇〇」というお題に対し、264個ものアイデアを御提案いただきました。お題とアイデアの一部は次のとおりです。

・「森林資源×癒しのひととき」
癒しのBGM　FM森林／森林にほえろ／落ち葉ベッド

・「森林資源×親子関係の向上」
超ハード鬼ごっこ／樹木葬／手作りレーンで流しそうめん

モンベル山形店を会場にセミナーを開催

・「森林資源×サブスク」
山の音配信／定点映像配信／木登りし放題／鳥の羽宅配

・「森林資源×自動運転技術」
全自動炭焼機／横穴野菜貯蔵／山菜発生状況パトロール

・「森林資源×AR（拡張現実）」
伐採危険体験／木と会話／百年後シミュレーション

・「森林資源×火星への移住」
アロマで地球を思い出す／菌の繁殖／山菜木炭定期便

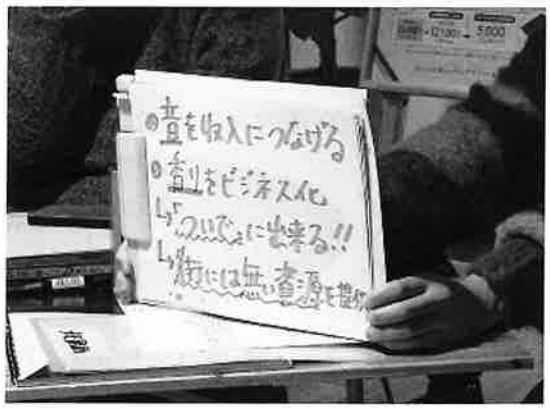
最後は、これらのアイデアをもとにグループごとにビジネプランを検討いただきました。

◆参加者の感想

・橋本氏から、地域の方の知恵や工夫、身の回りにある自然のものから生まれたビジネスを御紹介いただき、地域にあるものに関心を寄せることの大切さを学びました。

・大場氏、刈田氏の実践事例紹介では、全く経験のなかった森林・林業の世界に飛び込み、今や自伐林業を実践するに至った背景をとても朗らかに御紹介いただき、「山にはすべてがある、だから山をもっと身近に！山をもっとPOPに！」とお話くださったことから、自分も何かやってみたいという気持ちが強くなりました。

・相内氏の指導のもと短時間でどんどん新しいアイデアが生まれてくることにワクワクするとともに、森林の持つ可能性の大きさを実感しました。



研修アイデアをもとにビジネスプランを検討

◆おわりに

村山総合支庁森林整備課では、本セミナーで検討されたビジネスプランなどのアイデアの実現に向け村山地域の皆さんと一緒に取組んでいきたいと考えております。森林の活用について興味関心のある方はぜひ担当までお問合せください。

（担当：林政企画担当
電話：023－621－8284）

（村山総合支庁森林整備課）

「最上地域森林・林業・木材産業推進セミナー」開催

◆はじめに

3月7日、新庄市民プラザにおいて、管内の市町村・森林組合・林業関係者等約50名を対象として、最上地域の森林面積のうち約4割を占める広葉樹資源の価値を再認識し、その効果的な活用方法について理解を深めることを目的としたセミナーを、昨年度に引き続き山形森林管理署最上支署と最上地域林業振興協議会の共催で開催しました。

◆セミナーの概要

セミナーは「広葉樹資源の有効活用について」をテーマに二部構成で開催し、第一部は「広葉樹の活用状況と今後の可能性」と題し、林野庁東北森林管理局森林整備部長の唐澤智氏よりご講演いただきました。唐澤氏は、かつて林野庁では木材産業課に在籍し、その後津軽、愛媛森林管理署長を歴任されております。唐澤氏からは、これまでの国有林における造林・林道、間伐・木材供給等の豊富な経験から、国有林を中心とした東北地方の広葉樹資源の供給量、資源量の現状と、安定供給の取組事例についてお話しいただきました。

第二部は、「続・広葉樹の有利採材等について」と題し、昨年に続いて青森県森林組合連合会参事の秋田貢氏よりご講演いただきました。秋田氏は森林整備、原木流通販売事業に従事し、特に針葉樹高品質材や広葉樹の評価販売、製材品等にも精通しておられます。講演では、これまでの豊富な現場経験に基づいた広葉樹の採材方法や材の販売における課題等について、実際の広葉樹市場における最新の樹種別価格など、大変貴重なお話を聞くことができました。

セミナーの様子

◆おわりに

広葉樹市場が高騰している現状を踏まえ、最上地域の豊富な広葉樹資源の安定供給に向けて、今後より一層、民国連携して取り組むことが重要と感じました。

〔最上総合支庁森林整備課〕

山形県遊学の森からお知らせ

5月プログラム

○春の恵み感謝祭！ 第142回森の遊学塾

5/11(土)・12(日)

・春の森をめぐる
・春の恵みを味わおう
　山菜採りを行い、春の恵みに感謝しよう！

※詳細は右記QRを参照！ 5月以降プログラム詳細も！

令和6年度 森づくりイベントの情報満載！

4月 カタクリまつり

12月 クリスマスリースづくり

ホームページ　フェイスブック

←詳細は
こちらから

——全国食用きのこ種菌協会会員——

〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2

株式会社
河村式種菌研究所

お問い合せは：電　話 0234(42)1122㈹
ＦＡＸ 0234(42)1124

東北みちのくの珍味
トンビマイタケ菌床
まいたけ榾木

庭先でも栽培
できます。

きのこ種菌　しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

「置賜森林（モリ）ノミクス推進フォーラム2024」の開催について

令和6年3月7日（木）、シェルターなんようホール（南陽市文化会館）を会場に「置賜森林ノミクス推進フォーラム2024」を開催しましたので紹介します。

このフォーラムは、置賜地域の課題を解決し、地域の林業振興を図るために定めた「置賜地域の林業振興の展開方向」の取組みを確実に推進するため開催するもので、今年度で7回目となり、95名の参加がありました。

今回は、登米町森林組合参事の竹中雅治氏から「多様なプレイヤーと構築する広葉樹材の利活用～山がコアとなり進める新たな取り組み～」と題し、基調講演をしていただきました。竹中氏は「地域の広葉樹資源の用途拡大や需要の掘起し、付加価値の向上」を実現するため、地域の広葉樹資源の有効活用を目的として広葉樹材加工等に秀でた方々との協業体制のもと、積極的に製品開発に取組み、高付加価値化や販路の開拓を進め、自ら需要の創出の中心となり実践しています。

置賜地域の特徴となっている豊富な天然生林（広葉樹）の用途拡大や需要の掘起しを通じた有効活用が求められているなか、この取組みは置賜地域の森林・林業を活かすヒントになるものです。

また、会場の後方では、置賜産広葉樹材を活用した製品や木造建築を学んでいる山形大学工学部建築・デザイン学科の学生の作品等を展示し、参加者の関心を集めていました。

講演の状況

展示の状況

今後とも置賜地域の林業振興に向け、関係者と方向性や意識・情報を共有する機会を設定しながら、置賜森林ノミクスを進めたいと考えております。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす　総合アドバイザー

（一財）日本森林林業振興会　秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部　支部長　木村大助　〒010-0001　秋田市中通5-9-49　TEL 018(832)4040　Fax 018(835)6837

山形出張所　所長　佐藤宏一　〒990-2473　山形市松栄1-5-41　TEL 023(647)8450　Fax 023(674)0109

“美しい森林の風景を守るために”
森林経営管理をサポートします

●市町村の森林・林業行政の体制支援
●資源量調査
●森林GIS等、システム整備
●森林経営計画作成促進の支援
●路網整備の助言・指導
●関係団体とのマッチング
●森林境界の明確化
●森林情報の収集及び整備
●森林サイクルのマネジメント

一般社団法人 山形森林調査協会　〒991-0003　山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1　TEL.0237-85-8233　FAX.0237-85-8233　E-mail：yfi@kfa.biglobe.ne.jp

～海岸林を侵食する深刻な病～
令和5年の松くい虫被害状況等について

◆はじめに

庄内海岸林はクロマツを主体とした全長33㎞にわたって続く広大な人工林であり、日本海から吹き寄せる潮風や飛砂から庄内地域の暮らしを守る重要な林ですが、現在深刻な松くい虫の被害に直面しています。

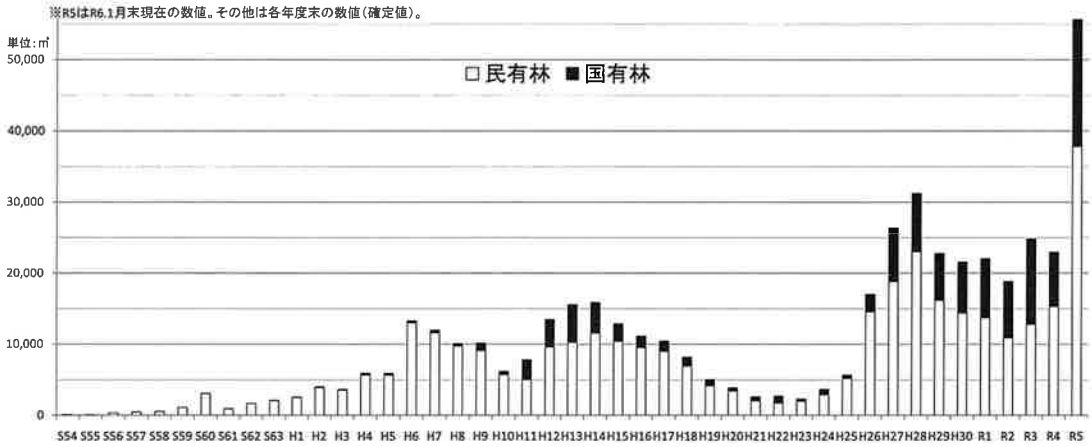
◆松くい虫被害の推移

庄内では昭和54年に最初の被害が確認されて以来、被害根絶のための努力が続けられてきましたが、平成27年以降は毎年2万㎥前後の被害発生が続いてきました。

そして、令和5年は前年の2.4倍、5万5千㎥（本数12万9千本）というこれまでにない被害が発生しました。なお、令和3年の全県の年間素材（丸太状態の木材）生産量が針葉樹・広葉樹合わせて約53万㎥である事を考えると被害の甚大さが想像できるのではないでしょうか。

◆松くい虫被害拡大の理由

松くい虫被害はマツノマダラカミキリが媒介して拡大するため、その幼虫が侵入している被害木（枯木）を砕いてカミキリを殺す事が主な対策となっています。この処理は被害木の9割以上に実施されないと効果が望めないとする研究があり、徹底した防除対策を講じる必要があります。しかしながら、令和4年は被害量の急増に対策予算が追い付かず未処理木が発生した事や、ここ数年続いている猛暑で雨が少ない夏がマツを衰弱させ、抵抗力を弱らせている事が、被害の拡大に影響していると考えられます。



松くい虫被害量推移（昭和54年～令和5年）

◆選択と集中

本来、松くい虫被害木を処理する責任があるのは被害森林の所有者ですが、技術面や資金面で対応が困難である事、早期に処理して被害拡大を防止する必要がある事から、市町や県が代わって対策事業を担ってきました。

しかし、ここまで被害が増えてしまうと、その全てを処理する事は極めて困難と言えます。今後は、海岸林機能を維持する上で重要度が高い森林を選別し、優先順位による防除対策の重点化を図る必要があります。

◆庄内海岸林を維持するために

クロマツは海岸林の主要な景観であり、歴史的遺産でもあります。

しかし、松くい虫がまん延した現在では海岸林に適した樹種とは言えなくなってきました。海に直接面しているような場所は、塩害や飛砂に強いクロマツ林を維持しなくてはなりませんが、それ以外の個所は他の樹種に植え替えるとともに、枯死したマツは腐朽して倒木や落枝による事故の発生源になるため、その前にマツ林の伐採を進める事を検討する必要があります。

庄内海岸林は、地域住民、国、市町、県といった地域全体で団結して植えて、維持してきた森林です。地域の関係者が連携して総合的な対策を実施することにより、この貴重な森林を次世代につないでいきたいと考えております。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

松くい虫被害の状況

令和5年度全国林業グループコンクール
大江町光林会が農林水産大臣賞受賞

令和5年度全国林業グループコンクール（主催：全国林業研究グループ連絡協議会）が2月29日に全国町村会館で開催され、大江町光林会（会田幸子会長）が農林水産大臣賞を受賞しました。大江町光林会は、昨年度の朝日町愛林会に引き続き、東北・北海道ブロックの代表として発表し、栄えある最優秀賞に選ばれました。

◆大江町光林会の発表

大江町光林会の活動の中で、「山林を相続したが所在が分からない」、「所有する山林の場所を子や孫に伝えたい」といった山林所有者の声がある一方で、若い世代の山林に対する関心の薄さに危機感を抱いた会田会長は、少しでも若い世代に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかと考え、「スマホを持って所有林を探しに行こう」研修会を開催した経緯を発表しました。研修会では、スマートフォンの地図アプリ（グーグルアース）に自分の土地の地籍データを表示させて、それを持って山へ行き所有林を探す方法を学びました。更に、大江町光林会では、「大江町美しい森林づくり協議会」等行政をまきこんで間伐の推進などの活動をしていることなども説明しました。

青山林野庁長官（中央）と会田会長（右）
清野県林業グループ連絡協議会会長

◆審査委員長の講評

審査委員長から「身近なものを使ってICT技術を応用し、課題を解決しようとする発想が素晴らしい。このような手法が大江町から山形県、さらに全国に広がっていくことを期待して、最優秀賞に選びました」との講評がありました。

3月28日には県庁に山形県知事を訪問し受賞報告をしました。スマホを使っての会田会長の説明に吉村知事も頷いていました。

（山形県森林協会）

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部では下記のとおり講習会を実施します。

◆「刈払い作業の安全衛生教育講習会」　学科及び実技で１日の受講

◇日時：５月21日（火）、６月４日（火）、７月19日（金）、９月５日（木）
◇会場：県森林研究研修センター（寒河江市）　◇定員：各30名

◆「伐木等の業務に係る特別教育講習」　学科（２日間）及び実技（１日）の計３日間の受講

コース	学　科	実　技	定　員	会　場
①	５月２８日（火）	５月３０日（木）	３０名	・学科：「協同の杜」ＪＡ研修所（山形市） ・実技：県森林研究研修センター実習林（西川町沼山）
②	及び２９日（水）	５月３１日（金）	３０名	
③	６月２４日（月）	６月２６日（水）	３０名	
④	及び２５日（火）	６月２７日（木）	３０名	
⑤	８月２０日（火）	８月２２日（木）	３０名	
⑥	及び２１日（水）	８月２３日（金）	３０名	
⑦	１０月１日（火）	１０月３日（木）	３０名	
⑧	及び２日（水）	１０月４日（金）	３０名	

◆「車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育講習」　学科及び実技（受講科目等により講習時間が異なる）

◇学科講習：８月８日（木）及び９日（金）の２日間　◇会場：「協同の杜」ＪＡ研修所（山形市）　◇定員：60名
◇実技講習（ワイヤロープ）：９月２日（月）、９月３日（火）　◇会場：県森林研究研修センター実習林（西川町沼山）
◇実技講習（作業のための装置の操作等）：９月９日（月）～11日（水）の３日間　◇会場：鶴岡市内
※当特別講習の受講にあたり、車両系建設機械運転技能講習や小型車両系建設機械の特別教育等の修了証が必要です

◆「木材加工用機械作業主任者技能講習」　学科のみ２日間の受講

◇日時：11月11日（月）及び12日（火）　◇会場：県森林研究研修センター（寒河江市）　◇定員：20名

◆チェーンソーを用いて行う伐木等業務従事者安全衛生教育「再教育」　５年ごとの受講（学科のみ）

◇日時：６月７日（金）、12月10日（火）　◇会場：県森林研究研修センター（寒河江市）　◇定員：各30名

◆作業計画作成安全衛生教育　学科及びグループ演習１日の受講

◇日時：10月31日（木）　◇会場：「協同の杜」ＪＡ研修所（山形市）　◇定員：30名

【お問合せ先】林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部　TEL：023-666-4810　FAX：023-666-4811

人事異動

令和6年4月1日付けで次のとおり発令になりました。

【森林ノミクス推進課】

▽森林活用推進主幹　佐藤典生▽森林保全主幹　日沼賢尚▽副主幹(兼)課長補佐（林政企画担当）　鈴木雄大▽課長補佐（森林利用・林工連携担当）(兼)産業技術イノベーション課林工連携推進専門員　池田里恵▽課長補佐（林産振興担当）　荒木龍平▽課長補佐（森林経営管理担当）　櫻井忠孝▽課長補佐（森林整備・再造林推進担当）　尾形俊成▽森林保全主査　林卓哉▽林道整備主査　佐藤充▽主査（森林利用・林工連携担当）　小野智史▽主査（森林経営管理担当）　野村真弓▽主査（森林整備・再造林推進担当）　山川里佳▽主事（予算担当）　関口浩太▽主事（林産振興担当）　工藤寛樹▽技師（林産振興担当）　鈴木麻友

【森林研究研修センター】

▽副所長(兼)研究主幹　渡部公一▽林産・林業経営主幹　菅井泰之▽総務課長　西堀博之▽シニア専門員　塩野克己▽研究企画部長(兼)農業技術環境課温暖化技術専門員　早乙女明▽主任専門研究員　新野雄大▽主任主査　武田眞行▽専門研究員　渡邊潔▽主査（森林経営指導部）　荒澤佑樹▽研究員　大友健慎

【東北農林専門職大学】

▽講師（森林業経営学科）　上野満▽講師（森林業経営学科）　古澤優佳▽講師（森林業経営学科）　吉崎明

【農林大学校】

▽主任指導員（林業経営学科）(兼)東北農林専門職大学主任指導員　大築和彦

【村山総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長　小畑義一▽森づくり推進室長　森谷浩▽課長補佐（林政企画担当）　森貴之▽シニア専門員　土屋隆一▽課長補佐（普及担当）　丹野雄一▽課長補佐（治山林道担当）　井上一馬▽シニア専門員　田中俊郎▽森づくり推進室室長補佐（森づくり担当）　海鉾清▽林政・西山杉ブランド化主査　井上浩▽治山林道主査　若木央▽森づくり推進室森づくり主査　越智温子▽森づくり推進室造林主査　高橋伸太郎▽主査（林政企画担当）　野村征宏▽主査（治山林道担当）　石川直幸▽技師（普及担当）　青木ほのり▽林業普及指導員（普及担当）　藤田麻矢▽技師（森づくり担当）　飯田幹起

【最上総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長(兼)林業・木材産業振興室長　志藤彰▽森づくり推進室長　坂本幸雄▽課長補佐（林政企画担当）(兼)室長補佐　松田名由▽課長補佐（治山林道担当）　芳賀高之▽林業・木材産業振興室シニア専門員　井上勝幸▽森づくり推進室室長補佐　矢萩洋平▽林政主査　横倉斉▽治山林道主査　黒沼一徳▽シニア主査　間宮敦▽林業・木材産業振興室専門林業普及指導員　瀧澤逸▽林業・木材産業振興室主任主査（木材流通対策担当）　石川浩▽森づくり推進室主任主査　梅津一寿

【置賜総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長　森川東太▽森づくり推進室長　山嵜優▽課長補佐（林政企画担当）　細谷一彦▽課長補佐（普及担当）　高橋晶▽課長補佐（治山林道担当）　戸田吉彦▽森づくり推進室室長補佐　鈴木俊行▽森づくり推進室シニア専門員　小関秀章▽林政主査　齊藤和恵▽治山林道主査　志斎和貴▽主査（治山林道担当）　仁藤敬喜▽技師（治山林道担当）　小原楓我▽技師（森づくり担当）　小野美乃里

【庄内総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長　伊藤聡▽森づくり推進室長　丹野真人▽課長補佐（普及担当）　齋藤朱美▽森づくり推進室室長補佐　齋藤浩▽森づくり推進室シニア専門員　菅原隆志▽林政主査　下山俊治▽治山林道主査　石川貴則▽森づくり推進室森づくり主査　阿部早百合▽主査（林政企画担当）　土岐恵理▽森づくり推進室主任主査（里山造林担当）　木村義昭▽林業普及指導員（普及担当）　阿部健太▽技師（森づくり担当）　渡部芳宇

【環境エネルギー部みどり自然課】

▽みどり県民活動推進主幹　黒田誠一▽主査（みどり県民活動推進担当）　松木利夫

●退職者

▽最上総合支庁森林整備課長　片桐政和▽村山総合支庁森林整備課課長補佐（普及担当）　工藤吉太郎

森林やまがた　二一一号

令和六年四月二十日発行（隔月発行）
編集・発行　山形市松栄一丁目五番四一号　山形県森林協会
監　修　山形県農林水産部
印刷所　渡辺印刷
定価　二八八円